

インターバンクの声（2014年8月11日）

ウクライナ情勢を巡っての欧米とロシアの対立やパレスチナとイスラエルの戦闘状態継続に加え米軍のイラク空爆まで始まり、地政学的リスクは一向に収まる兆しが見えてこない。リスク回避によるスイスフランと円買いが今回もまた始まっているが、いい加減的外れになってきていると思っても、市場に定着してしまったこのオペレーションに変化を期待するのは簡単ではない。それでも今回の円買いは、いまのところ金曜日の101円台半ばまでに留まっているとも解釈でき、7月中旬にマレーシア航空機がウクライナで撃墜された前後の101円を割りそうだったレベルには達していない。いずれ地政学的リスクが一段落して米金利が上昇し始めれば、ドルが次第に上昇し始めるだろうと言う市場のコンセンサスが大幅なドル売りにはブレーキを掛けているのかも知れない。日本国内は夏休みに入り始めた企業も多く、海外市場でも相場を揺るがす可能性のある経済指標の発表もさほど多くないことから、今週も極端な相場展開になるとは予想し難いが、地政学的リスクに対する意識が悲観側に傾けば一気にドル売りが進むことも想定しておくべきだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。